

団地／それぞれの住まい歴調査 vol.1

■日時：2013年3月5日:15:30~16:30

■場所：男山団地中央センター1階:喫茶 peepul

■参加者：

◇居住者：

・Tさん

・Mさん(Tさんのお孫さん)

居住者。お孫さんが京都府立大学に入学されてから、滋賀の親元を離れ、お祖母様の家に同居しており、今は2人暮らし。お祖母様の旦那さんは7年前に他界。

◇KSDPメンバー

・星田：H

・安原：Y

・片岡：K

Y:それであの、実際にそこにお住みになっている方ですね、あの、こんな、ここへ来られてこんな生活をしてこられたとか、あるいは、ここの住んでみてよかったこととか、あるいはあのよくなかったこととか、まあいろんなことがあるかと思います。それで、そこであのいろんな方がそれぞれに生活されて、子供さん育てられたりいろんなことをしてこられてますよね。それをね、あの、いわゆるアンケートに書いてくださいとかいうんじゃないくて、なんとなく話していただきたい。そうすると、約12、3年前にこっち来られたように今さっき伺いましたかな、それ以前の生活を少しまあ教えていただいて、それでこっち来られたらどんな具合にその思っている生活というのが変わってきたとか、というようなことをね、あの前後なるべくどうでもいいですから、お話しただけなら、あのまた何かおたずねしたいなと思ったらその場でほんとたずねますし、というようなことをお願いしたいというように思っています。固くかまえんといってください。

Tさん:役にたつかどうかわかりませんが。

Y:いえいえ、そのまま話していただいたらと思います。よろしくお願いします。

K:あの、どういうきっかけでここに来られることになったのかというところからお願いします。

Tさん:あのね、最初は枚方に住んでたんです、枚方の公団の買い取りに住んでまして、そして一あの、次女とね、同居するゆう話が出て、で、橋本に二世帯で家建てたんです。でも娘婿が滋賀県のほうにね、お仕事が変わったので、それで・・・家処分して、そしてもうここにはいろいろゆうて、ここやったら買い物も近いし、病院も近いし・・・うん、すぐ坂を降りたところに葬儀屋さんもあるし。

K:ふふふつ(笑)。

H:ふつふつ(笑)。

Tさん:なんでもそろってるしゆうて、フフン。あの・・・言うてそしてこの、い、1階と5階はやめにして。

Y:なるほど。

Tさん:2階に・・・あ、その時はまだ主人がおったんです。ん・・・だけであの人も7年前に、癌で亡くなりました。

Y:あーそうですか。

Tさん:はい。で、わたし独りでずっと暮らしてたんですけどね。何の気無しにこの人が大学受ける言うて、もし?き

よ、京都のほうの大学が通ったらおばあちゃんのとこ置いてあげるわって私がぼろっと何の気無しに言うて。ああ受かったわあばあちゃんとか行くわあ言うて、ええ～!えへへ(笑)で感じで。そんな深い意味いあれで言ったんじゃないかったんやけどね、せやけどまあ・・・来てくれる言うことで。

Y:でもご一緒になられてよかったんじゃないですか?

Tさん:預かって1年は私も元気だったんですよ。

Y:うん。

Tさん:ものすごい張り切って毎日お弁当つくってやって(笑いながら)。

Y:ふふ。

Tさん:うん。んでそれが楽しくて一アレだったんですけど。あんまり張り切り過ぎたんか知らんけど、まあもともと私糖尿持ってるので、うん、だから、いろいろと長いこと持ってるから、そんなんで去年から出たり入ったり病院しとって・・・つい最近退院してきたばかりで・・・

K:あ・・・

Y:ああそうですか。それは、今日は、ほんとに申し訳ない。

Tさん:いやいやいやあ、元気になって帰ってきてますのでね。というかこの人が卒論で忙しいときに私がもう一そんなんでごたごた言うてるもんやから、そやから、とにかく病院に入院してって、心配で学校行かれへんから言うてね。で、タクシー呼んでぼうに、病院にほり込まれてハッハッハッハ(笑)。

K:ツフフ(笑)

Tさん:ふん。まあ良かったんですけどね、そんなんで。

K:へえ～。

Y:以前にも、その枚方では団地住まいは経験あったんですか?

Tさん:ありました、はい。

Y:あつ賃貸と買い取りのちがいがみたいな・・・

Tさん:そうですね。

H:枚方のどちらですか?

Tさん:あの一中宮。

H:中宮。

Tさん:はい。

Mさん:一戸建てやろ?

Tさん:ううん。

Mさん:あ、ちゃうかったっけ?

Tさん:うん。あの一あの、その、その、ほら・・・第四住宅みたいな。買い取り。5階建ての買い取り。

Tさん:そうですね。
 Mさん:ばあちゃんカラオケとかしとるやろお。
 K:ふふふ(笑)
 Tさん:〜っフフフアッハッハッハ(笑) まあカラオケが好き
 だえ。
 Y:ああそう! あっそしたらそれはどこかで? それとも家で。
 Tさん:いや、家で・・・家でしない(笑)
 K:家で(笑)
 Mさん:騒音やな(笑)
 (一同笑)
 Y:そうやなあ(笑)
 Tさん:家ではテープで入れたの聞くだけ。でまあ行きつけの
 ところがあって。樟葉と一こっちのほうにあるんですけ
 だ。
 Y:ああそうですか。ほんならそこいったら仲間の方がいらっ
 しゃる。
 Tさん:ああそうですねえ。あの一・・・昨日も行ってきまし
 した(笑)。
 (一同笑)
 Tさん:ふふん(笑)。昨日は6曲くらい歌えて、ママが今日
 はようけ歌えたね一言うて。
 Y:元気になるなるんじゃないですか、歌お歌いになって。
 Tさん:そうですねえ。
 Mさん:発表会とかな。
 Tさん:4月の終わりに、(エッフ) そこの学習センターちっ
 ちやい舞台があるんですよね。
 Mさん:発表会。
 K:へえ〜〜。
 Tさん:はい。発表会、そこで。いや、もう今年は、こんなち
 ょ、体調悪いから出るのやめよかなあって思ってたら、
 毎日ママが散歩のがてらに病院によってくれてえ(嬉し
 そうに)。
 Y:あつなるほど。
 Tさん:もう出て出て出てえ〜言うて。
 Y:うん。うん。
 Tさん:どうしよかなあ思うてたけど、出たほうがいいのかな
 あと思つてウフッフッフ(笑)。
 Y:そのお店は団地の中ではなくって、その、どっか周辺。
 Tさん:はい。あの一どない言つたらいいのかな? あのと
 の・・・図書館、っていうの、あそこのちょっと坂降り
 たとこに。
 Y:ああーそっかそっか。ああそしたら B (UR 男山賃貸住宅
 の B 棟の意味) からは比較的近いとこやね、B 団地 (UR
 男山賃貸住宅の B 棟の意味) といつか。図書館で向こう
 の方ですよね?
 Tさん:はい。向こうです。
 (沈黙約 5 秒)
 K:えっ B ですよね? そのお・・・ B じゃなかったでした?
 Tさん:うちは C (UR 男山賃貸住宅の C 棟の意味) です。
 K:あつ、C やった・・・ごめんなさい。
 Y:あつ、C か。
 Tさん:ちょっとあります。だから、あつ、うちは一買い取り
 のほうと A と B と。
 K:はいはい。
 Tさん:同じ敷地・・・
 K:C に住んでいらっしゃる・・・

Tさん:うちは C です。C とそいでまた道路はさんで向こうが
 買い取りと、賃貸とね。
 Y:ありますねえ。
 Tさん:結構広いですよええだから。
 Y:この中もあの一真ん中にずうーと樹の生えた道があつて。
 あの一そこなんかこう、お散歩してもいい雰囲気になつ
 てる、ところがありますよね。まああんまりこんなか、
 あのお行き来していっぱい歩いていらっしゃる、ゆうこ
 とはないみたいですけど。
 Tさん:いや朝はねえ結構、ご夫婦とかでね。
 Y:うん。みなさん歩いてはる?
 Tさん:夕方とかね。歩かれてます。
 Y:うん。うん。
 Tさん:私はそういう風に、個人的に体調が。息があがつてく
 るんです。つい最近見てもらったんですけどね。坂道、
 坂道歩くともうちよつと、一服しながらでないとおがれ
 んし、しんどいんです言うたら先生が、検査した結果、
 別に悪いことないんやけど言うて手術の結果もあれもキ
 レイにできてるしいて言われるんですけどねえ。もうプ
 ールも行ってもいいからって・・・でもなんかもひとつ
 足がしっかり・・・しないんですよえ。
 Y:以前は泳いでおられた?
 Tさん:いや、私は療養があるんですよ、歩く、ウォーキング。
 Y:ああ、歩いてね、プールの中を歩いて。
 Tさん:はい。1 時間ね。
 K:うん。
 Tさん:それは全然しんどくないんですよえ。
 Y:はいはい。
 K:あー。
 Tさん:ここの平道・・・(地図を指しながら)
 Y:坂が多いからなあこの辺は。
 Tさん:ここの平道でも私(地図を指しながら)・・・一服しな
 がらでないとお、息があがつてくる。苦しいから。
 Mさん:1 分に 1 回くらい休むなあ。
 Tさん:ハハハハ(笑)
 K:そんなに・・・(笑)
 Mさん:ほんまに。
 Tさん:ハッハ(笑) だからこの人私とその辺のスーパー行く
 のもおッホッホ(笑) そんなに好きじゃない。
 K:あはははは(笑)
 Mさん:あの一中央センターであんまり買い物しはらなくて
 一。
 Y:はい。
 Mさん:ライフの方まで毎回行ってはるんですけど。
 Tさん:買うとこあれへんやんこころへん。
 Mさん:まあなあ。さびれてしもうたからな。
 Y:普段、日常のものってあんまり、お店もね。
 Tさん:無いです。
 Y:向こう行つたら八百屋さんなんかちよつとあるけどね。
 Tさん:だからライフか、ちよつと坂上がつていったとコー
 プ・・・
 Mさん:あと市場、あるやろ? 朝市。
 K:へえどこにあるん?
 Y:ここで・・・
 Mさん:週に、月に 2 回くらい・・・
 Tさん:月 1 回。それはここの一(中央センターの) あの一こ

この自治会の人や近隣の農家の人に声をかけて、月に1回決めた日と時間に来てもらって。

K:ここで?

Tさん:はい。ここで、ちょうどここです。

K:へえ〜。

Y:ここです。そうですか。

Tさん:助かりますわ、あれ。

K:うん。

Tさん:だから・・・会長さんが替わるっていうのはいろんなことしてくれはるからいいなあと。ここつい何年か、2年くらいですかねそれ始めはったんは。

K:へえ〜。

Tさん:そればで私ごろごろ引っ張って、松花堂の朝市言うてね、あそこ松花堂ありますでしょ?

K:はいはい。

Tさん:あそこに農家の人や、10人ぐらい?あの来てくれて朝市してくれはるんですよ。

Y:ああそうですか。うん。

Tさん:そこいくと、鮮度が良くて安いから。

K:ああ。

Y:うん。

Tさん:うん一行ってました。

K:へえ〜。

Y:今でもそこはやってるんですね?

Tさん:やってます。やってますけど、私が行かないだけで・・・

Y:ちょっと、ちょっと歩くの大変ですもんね。

Tさん:ちょっとねーあの一、越してきた年はまだ若かったからフフフ (笑)

K:いやいや今も若いですよ。

Tさん:うん。あの一行ってましたけど、だんだんもう、歩くのがね、しんどいから、近くでね、アレしとこうかと言う感じで。

K:越してこられたばかりの時もライフでした?お買い物って。

Tさん:んーライフとか、あのよくコープに行っていました。

K:あ、コープ。

Tさん:うん。

K:ふーん。

(食器の音・沈黙約20秒)

Y:ここへ、あの一学校入学してからこっち移ってきたわけでしょう。

Mさん:はい。

Y:ここの(男山団地の)生活で、なんか、そのちょっと新鮮なもの・・・もんがあった?

Mさん:あつ。そうですねー。あの一僕もここフィールドにして研究してるんですけども。

Y:あ、そうなん。

Mさん:まあ植栽に関する研究なんですけども。

Y:植栽。

Mさん:あの一住民がなんかまあ、植栽活動をやってはるんですけども、まあそれに関する研究をやっていて、でまあまあいろんな人が、まあ賃貸で、まあ自分の土地じゃないんですけど(少し笑いながら)、やってはるってことで、そういうところは非常に面白いなあとというふうに思いますね。で・・・まあ不便なところといいますと、や

っぱりあの、電波が届かない。っていうところに・・・笑。

K:ええー。

Tさん:ハッハッハ (笑)

Mさん:あ、いや、あの一ー応まあ届いてるんですけども、なんかそのまあ例えば、Wi-Fiのルーターとか。

Y:はいはい。

Mさん:インターネット開こうとしたら、すると、一時的にその、遅かったりとか、切れてしまったりとか。3G回線とかも、あ、えーとスマートフォンの3G回線とかも、もちろんLTEってのも来てなくて、3G回線も切れまますねえ時々。

K:あそう、えっそうなの。

Mさん:まあ場所によりけりなんですけど。

K:うんうん。

Mさん:すごい悪・・・不安定かなって言う・・・。

K:へえー。

Y:あの詳しいことわからないけど、この辺ねえ自動車のカーラジオでも入りにくい。

K:ああそうなんですか。

Y:うん。ここから京都にむかうにかけては。だからそんなことと関係あるのかもしれない。

K:そうかもしれないですね。地形の問題かもしれないですね。

Tさん:だから私一人暮らしやから。

K:うん。

Tさん:八幡市があの一申し込んだらあの、緊急ボタンをね。付けてくれる、てたんです。

Y:うん。

K:うん。

Tさん:でもこの子が、入らん入らんもう (笑) パソコンがでけへん言うて文句ばつつか言うから、もう取ったんです。

K:アッハッハ (笑)

Mさん:フフ (笑)

Y:そのボタンは線で繋がってるんとかやいますか?

Tさん:いや、あのおなんかね、電話からアレするのと2つあるみたいで、私の場合はあの一とつても、別に関係、電話からじゃ・・・

Mさん:電話線やろアレ。

Tさん:電話線?んじゃなんか・・・んでまたいる時はいつでも連絡頂いたら付けてあげるからゆーて。

K:ふんふん。

Tさん:それからこの子が来たから取り外しです。入らん入らん言いやるからもう。

Y:なんかの時だけでもその繋がるもんがあったら心強いんですけどね。

Tさん:まあこの子がおる間はね。

Y:まあおればいいね。

Tさん:うん。おらんようになったらすぐまた復活しますけどね。それはもうできますーて言うてくれはったので。

Mさん:こないだあの一八幡のえーと一市役所のところでやってたあの一講演、見に行かせていただきました。

Y:あつ・・・

K:あつ。展覧会。

Mさん:展覧会。

Y:展覧会やな、あそこで。

K:ありがとうございます・・・ (笑)

M さん: まあそれだけなんですけど (笑)
 Y: どうでした?
 K: フフン (笑)
 M さん: いや、あのねえ結構まああの僕の個人的な感想なんですけども、すごい、大規模なことやってはるなあという (少し笑いながら)。
 K: ああー。
 M さん: 僕があの一もう C 団地の中だけでね、あの 1 人とかあと研究室の人だけでやってるんですけども、まあ大きい大学は、やるのがでかいなあと思って (笑)
 K: ひひひ (笑)
 M さん: すごい (笑)
 Y: ふろしきひろげてる。
 K: そうですそうです。海外の模型もあったからかなって思うんですけど。
 Y: ああようやな。
 M さん: ああラネフェルデやったっけ?
 K: そうそうそう。黒い模型が。
 H: でもまだ 75 だったらお若いから、あの毎日のご、食事とかは、自分でつくってね、あの一まだまだ・・・
 T さん: してますう。はい。
 H: 買い物行かれたりとか。
 H: でもまあ女の方は長生きだから、やっぱまた・・・ちょっとずつね、食事とか。
 T さん: いやあー、そんなにフフ (笑)
 H: そういうご予定は無い。
 K: ふっふっふ (笑)
 T さん: そんなにもうあの一 (笑) 生きなくてもいいんです。
 H: ふっふっふ (笑)
 M さん: しぶといでほんま。
 T さん: しぶとい・・・ (笑) なんかいいいながら病院出たり入ったりしながら、生きていくんちゃうかなあ思て、嫌んなくてきてフッフッフ (笑)
 K: ふふっ (笑)
 H: カラオケ以外にもその一お友達とか 1 3 年くらいに、なるとうどうですか?
 T さん: ん・・・。韓流ドラマが好きで。
 K: ああー。
 T さん: あのースンホン様の追っかけてましたけどフフ (笑)
 K: あはは (笑) そうですか、へえー。
 T さん: 去年まで、幕張に行ったり。
 H: まだまだ若いす (笑)
 K: わあ～若い若いふっふっふ (笑)
 T さん: いやーもう一、ハマってしまつて。
 K: はい。
 Y: ああそうですか。
 T さん: でももう、ファンクラブにも更新してない、辞めました。
 K: ああでも入られてたんですね。
 T さん: 入ってたんですよ。
 K: へえー。
 M さん: 家にポスターはとるなあ (笑)
 T さん: つつっつヒッヒッヒ (笑)
 H: アハハハハ (笑)
 K: ふっふっふ (笑) へえー。

T さん: うーん・・・
 Y: すごくいろいろと忙しくやっておられたわけで・・・
 H: ふふふ (笑)
 T さん: そうです。もうやっぱり・・・こんな身体やからどこ行くにも 1 人では行けないから。ソウルも 3 回くらい行ってるんですよ。
 K: へえー。
 T さん: 1 人で、あの一初めての時は、滋賀の、娘つれて。
 H: はい。
 T さん: でこないだの幕張は長女つれて (笑)
 K: はい。
 T さん: もうこれで終わりにするから、こ、これで最後やから付いてって言うて。うん・・・まあ元気もらってましたけどね。
 K: うんうん。それドラマとかねえ、近所の方でこう、ビデオ交換とかしないんですか?
 T さん: うん。あの一そうです。
 K: ああ。やっぱり。
 T さん: ちゃんとね。うん、フフ (笑) 近所っていうかまあちょっとそこのどう、あの一バスの通りの新しいマンション、6 階建て、7 階建てかな。
 K: うん。
 T さん: その方が・・・
 K: 貸してくださる?
 T さん: (うなずいた様子)
 K: ふふん、へえー。
 Y: そういうお友達になれる方っていうのは団地の中の方にも、はもちろんいらっしゃると思うけど、そういうその外の人々は結構多いんですか?
 T さん: そう・・・
 Y: そんな多いというほどではないと思うけれど。
 T さん: その方とはその、どうしてそういう風に知り合ったかと言うたら、昔ちょっと絵手紙習ってまして。
 K: ほうほうほう。
 T さん: そこで知り合った方で。
 Y: うんうん。うん。
 K: へえー。
 T さん: でまあその方も韓流好きでえ言うことだね。あの一話が弾んで・・・
 Y: ああー。
 T さん: うん、そんなんでね。旅行もちょっと連れってつてもらったりね。
 K: うん・・・絵手紙ってえ市役所とかのなんかあれですか、なんか生涯学習センターとかでやってるやつですか?
 T さん: んーその男山公民館でね。
 K: はい。
 T さん: 月一回。
 K: やってる。
 T さん: うん。やってみました。
 K: ああ、やってみました。
 T さん: うんうんもう韓流にハマったからー (笑)
 K: 切り替えたんですね (笑)
 T さん: 描いてられへん。
 K: うっふっふっふ (笑)
 T さん: 見るほうが楽しいでッフッフッフ (笑)
 K: すごい・・・ (笑) へえー。

Y:公民館っていうのは今そちょっと工事やってるところですね。
 Tさん:はいそうです。
 Y:もうあそこではいろんなことをやっている。
 Tさん:そうです。はい。
 (沈黙約5秒)
 K:さっきね・・・
 Tさん:それまでえ私、中宮におるときなんかはもう、お勤めしてたからあ。
 K:ああそうですか。
 Tさん:うん。だから地域のそういう・・・いろんなあれもあったと思うんですけど。
 K:うん。
 Tさん:ほとんど参加してなかった・・・
 Y:参加してなかった。おいくつぐらいまで仕事してらっしゃったんですか？
 Tさん:いや、あの一58
 Y:ああそうですか。
 Tさん:でえーあの一長女が3人目え出産して、私ちょっと・・・こ、子守りとかで。
 K:あー。
 Tさん:行ってあげたいからあ言うことで、もう会社にやっぱり籍おいとくとなかなか思うように休みたいときにね、有休も取れないから、うん、辞めよう言うことで。
 K:うんうんうん。へえー。
 (沈黙約5秒)
 Mさん:ばあちゃん団地の中に植栽仲間おるやろ？植栽してる・・・
 Tさん:ああカンノさん？
 Mさん:何人かいはるやろ？
 Tさん:うん・・・だからそういう方たちと、これからも花が、あちこち咲くでしょ？
 K:うん。
 Tさん:そんなんで話が弾んでね。うん。。。私はもうクリスマスローズと、それからあの一・・・これぐらいの大きな椿の花が咲くんですよ。
 K:はいはい。
 Tさん:それを自分で刺し木して、自分で下におろしたんですけどね。
 K:へえー。
 Tさん:それやっぱキレイやあゆうてみんな見に来てくれるし。あんまり私イフフ(笑)夏場水もやらないような、ほったらかしやからあうん。
 K:それ誰かやってくれるんですか？
 Tさん:うん、近所の人がやるときに(笑いながら)。
 K:いいですねえ！うふふふ(笑)
 Tさん:それでやとったよおーゆう感じ。
 K:へえー。
 (沈黙約10秒)
 K:それなんかちょこちょこ花植えられてるのって、なんかサークルみたいなんあるんですか？
 Tさん:ん？ない。
 K:もう自由に？
 Tさん:自由。
 K:ああ。
 Tさん:自治会もなにもタッチしてない。

K:ふうん。
 Y:ほんならあの、階段降りてその前ぐらいのところに・・・
 K:そう。ありますよね、綺麗な花。
 Tさん:勝手にね、フフフ(笑)
 Y:かなりかなり手が入ってるのも・・・
 K:そうそうそう。
 Tさん:綺麗にされてるとこ、草一本も生えてないところもありますけどね。
 K:すごい綺麗にしてはる。
 H:階段降りた側ゆうたら北っかわですか？
 Y:北っかわ。
 H:南、ベランダ側はしない・・・？
 Tさん:んー・・・そうですね。すぐ下にもされてる方おられます。
 Y:クリスマスローズなんかあんまり陽あたらんほうがいいですね。
 H:なるほどね。
 (沈黙約4秒)
 Y:ほんならそういう楽しみごとが、まあ今はちょっとお身体が、少し不自由やけれどね、そのいろんな人との関係、ええ楽しみごとが、ずっと繋がって続いていってる・・・
 Tさん:そうですね。その花を通じて。
 Y:うん。
 Tさん:しゃべるっていうか。そういうのありますよねえ。
 Y:なにか食べたりしてしゃべる、そういうことは？
 Tさん:ないですうね。
 Y:あんまりない。
 Tさん:うん・・・家の中上がってどうこうで、お茶を飲んだりとかまたそーいうおつきあいとは違うんですよ。
 K:なんかおかず作り過ぎてお裾分けとかもないんですか。
 Mさん:やってるなあおばあちゃん。
 Tさん:ツプツプツプツプ(笑)
 K:へへ(笑) やってます？
 Tさん:うん(笑)
 Mさん:結構仲のいい人が周辺にいはるんで。
 K:うん。
 Mさん:例えばまあお裾分けしたりとか、でもまあそのかわりに、向こうの人がその、買い物するときに、荷物を持って上がって来てくださったりとか、雨降ってるときに、雨降ってるよって電話かかってきたりとか。
 K:へえーすごいですね。
 Mさん:密な関係が、あるほうやとは思いますがねおばあちゃん。
 Tさん:ベランダからこう、私がゴロゴロ引いて帰ってるの見てバァーっと降りてきてフフ(笑) 荷物、あの、上まで上げてくださったり。
 H:ああーそうですか。
 K:それ、助かる。
 Tさん:だからもうこのごろね、あのお世話になってるんですアッフッフ(笑)
 Y:それはね、まあお互いさんですからねえ。
 Tさん:うんうん。みなさん若いから。私・・・みたいな年いった方はそんなに。まあ何人かおられるけどお、私みたいに身体悪くないから。あの一階のおばあちゃんなんかはもう、かなり年いってはると思うんやけどね。
 (沈黙約6秒)

Tさん: まああの一ここのC団地の・・・会長さんとか役員さんものすごい団地のことでね、熱心に。
 K: そうですね。
 Tさん: されてますよ。
 Y: うん。
 Tさん: あの一、夏まつり、餅つき(笑)こないだあんた、一回もつかへんかってねえ(笑いながら)
 Mさん: ふふん。
 K: あっ。餅つきありましたあ？
 Tさん: ありました。
 K: なんか準備されてるの見てえ、それいつあったんですか？最近？
 Tさん: えー・・・
 Mさん: 1月の・・・
 Tさん: 1月ー14日、かなあ？
 K: 1月14日、へえー。
 Tさん: あっ。ちょうど、雨が少し降ってたからねえどうされるかなあと思ってね、ちょうどそこ・・・そこでやったんやね。
 K: それは毎年やってるんですか。
 Tさん: 毎年。
 K: 正月のイベント？
 Mさん: まあそうですね。まあなんか僕もそんなにあんまり参加してないんであれなんですけども、まあよかったらあの一関大ー関西大学さんで住んでる人もそういうのにどんどん参加されると・・・
 K: そうだね。
 Mさん: いい情報入ってくると思うんで、はい。せっかく住んでるんやったら、参加するのもいいかなと思うんですけど。
 K: ということは、え。自治会に入ってるっしやるっていうこと・・・
 Tさん: ん？
 K: 自治会とかに入ってるっしやる・・・
 Tさん: はいってますよ。
 K: あ。そしたらそういう回覧板とか来るんですか？
 Tさん: あああの一ちゃんとおあの一夏まつりとかあウウン(咳払い)餅つきだったら、焼きそばの券とか、あ、いか焼の券とかね。
 K: ああ・・・
 Tさん: あのそんなんの配りはるからね。だからそういうのすごく、熱心に役員さん忙しいと思うけどねえ。あの、準備してえやってくださるしい。前、だから三年、今年で三年餅丸めについて、お手伝いについて、なんかちょっとできることしてあげるかなあと思って。
 K: 夏まつり行ったんですけど、まあ行っただけ見学させてもらったんですけど。
 Tさん: うん。
 K: なんか櫓組んでて。
 Tさん: そうそう。
 K: すごいだいたいのまあちょっと天気悪かったんですけど、去年は。
 Tさん: うんそうね。
 K: ね。
 Tさん: ちょっとだけ私も踊ったかな？
 K: うん。あ、踊りました？

Y: それ盆踊りみたいな。
 K: そうそうそうそう。もう提灯吊って。
 Y: うん。
 Tさん: うん。
 K: 本格的なやつ。
 Y: すごい盛り上がるんやろね。
 K: え、分譲やったらなんかわかるんですけど。
 Y: うん。
 K: 賃貸ですごい気合いは入ってたから(笑)
 Tさん: そうです。
 K: すごいとこやなと思って。
 Tさん: あの一ここのあの一ちゃんとされるからね。うん。
 K: うん。それ前からやってたんですか？
 Tさん: 前から、私引っ越してきた時から。
 K: からやってた。
 Tさん: うん。
 K: ふう〜ん。
 Tさん: でもお・・・年々踊る人が・・・私がこしてきた頃は、中学生ぐらいのね、子が浴衣着て、櫓の上で踊ったりしてたけど、フッそれがだんだんもう・・・しなくなって。それで教え・・・教えてる人も、年いってきて、身体が悪くなって(笑いながら)
 K: ああ・・・
 Tさん: だから私去年・・・去年まで私もちよっとお手伝いさせてもらって、教えたりしたんやけども、今年はどうできないかって、たぶん。
 K: うん。
 Tさん: こないだあの一新春の集いっていう、老人会で、主催であつたんですけど、踊ってたらふらあ〜としたからああもうこれはあかんわあと思って。やめて(笑)。落ち着きませんね。
 Mさん: 自治会の勧誘率も下がってきてるって言うふうにおっしやりましたね。
 K: ああ。
 Y: まあだんだん若い人がやっぱり減ってきてるんですね。
 Tさん: そうですねえ。
 Y: かわりに若い人がやったらあげたらいいだけで・・・あのちょっと昔のこと伺いますけどね。
 Tさん: はい。
 Y: 枚方に、まあ団地に、入られたっていうのはおいくつぐらいのときに入られたんですか、それ以前・・・ではあの別のところで。
 Tさん: ...九州。
 Y: 九州。
 Tさん: 九州の佐賀から。
 Y: はい。
 Y: あの一・・・小松に就職、主人が就職したのでね、それで、あのころ・・・結構こっちのほうにね、みなさん来られたので・・・ね。
 Y: はいはいはいはい。
 Tさん: それで、一番最初は府営住宅に入っただけです。
 Y: あ、府営住宅。
 Tさん: それから中宮の一買い取りを、買って。それで10年くらいおって、下の子と一緒に暮らすゆう話が出たので、橋本に家建てて。
 Y: ああなるほどお。

Tさん:はい。その流れで、こっちにこっちのほうにきた・・・
 Y:ああそうですか。
 Tさん:はい。
 Y:そしたらあの一、この関西、大阪に来られた時からずっと
 団地住まいが始まったということなんですね。
 Tさん:ああそうです。府営住宅ね、うん。
 (沈黙約13秒)
 Y:あのいくつか団地を、まあそうして変わられましたよね。
 Tさん:そうです。
 Y:その変わったところの違いみたいなことを、感じたとかあります?
 Tさん:ああそらやっぱりその一。田ノ口団地は府営住宅。いろんな人が住んでいる。
 Y:ふん。
 Tさん:そいだから中宮の買い取りにきてやっぱり環境がちよっと違いますよね。
 Y:ああそうですか。
 Tさん:あの一・・・まわり、きれい。お掃除する方がおられるんで。田ノ口団地、府営住宅なんかは、自分たちが、月に一回お掃除、せんといかんのですよ。そしてあの一ゴミ当番って言うのがあってね。その・・・ダストにこう、ごみを入れるんですけど。それを、きれいにコンテナを洗ったり、中に入れたりする当番をね、住んでるのがする。公団なんかはみんなほかのやと、やとわ、あの一・・・
 Y:出しといたらやってくれる。
 Tさん:はい。あの一・・・してくれる人がおられるから。
 Y:はいはい。
 Tさん:必然的にいつも綺麗ですよ、道なんか歩いてても。やっぱりそういうような違いは・・・ありますね。
 Y:お嬢さんは2人とおっしゃいましたね。
 Tさん:はい。
 Y:お子さんはその、団地で育てられたんですか?
 Tさん:途中からね。田舎で・・・
 Y:あ、もう、田舎でもう生まれて、いっしょにきた。
 Tさん:小学校のときに、こっちに来てるから。
 (沈黙約18秒)
 Y:やっぱりあの子育ての頃住まったところのほうになにかその、印象、住まった場所の印象っていうのは強い・・・
 Tさん:田舎でしたからね、あの、佐賀県・・・
 Y:でも小学校でしょ。
 Tさん:はい。
 Y:まだそこから学校。
 Tさん:はい。
 Y:あのずっと行く間・・・団地で育って、育っておられます。
 Tさん:だからこの子の母親が、小学校3年のときにこの。
 Y:うん。
 Tさん:こっちのほうに、んで。
 Y:下のお嬢さんは。
 Tさん:下の子がまだ保育所、幼稚園。私子供小さいとき、働いてなかったから。
 Y:はいはい。
 (沈黙約18秒)
 Y:ほなやっぱり、公団の団地のほうが府営住宅よりも管理とか、そういうのは行き届いてるということですね、お話やったら。

Tさん:ん一家賃が違いますしねえ。
 Y:んで男山というところはどうか、暮らしやすいとこ?
 Tさん:ああ・・・そうですね、あの、バスう、そこがバス停ですけど、結構ありますしね、樟葉までいくの。
 Y:しょっちゅう走ってる。
 Tさん:はい。ありますし・・・んん・・・まあ・・・病院も近いしフフ(笑)。
 Y:ええ。あの一いろんなこと整ってて、暮らしには暮らしやすい。
 Tさん:ううん。うん。そうですね。だから私たちが田ノ口団地の府営住宅にいてるときに、ここの買い取りとかね、あの一建てたと思うんですよ。
 Y:はいはい。
 Tさん:そういう話は聞いてたから。
 Y:だいたい40年ぐらい前とか言うてましたね。
 Tさん:だから・・・だからあの頃まだ不便やったと思いますわ。
 Y:そりゃそうでしょう。
 Tさん:玉口府営住宅から何人か買い取りのほうにね、行かれた人も・・・
 Y:そうですか。
 Tさん:はい。話聞いたことありますのでね。なんかバスもあんまり通ってないのかなんかゆうて(笑いながら)
 Y:なるほど。そうでしょうね。そのずいぶん便利になったんでしょうね。
 Tさん:そうみたいですねえ。でいまミニバス言うのができてえ。
 Y:はいはい。
 Tさん:そこ中まで入ってくれるから。
 Y:ああ小さいコミュニティバスがね、中に。
 Tさん:あれえ便利です。
 (沈黙約18秒)
 Y:樟葉にいま行かれる、まああの辺にはそのショッピングセンターとか、いや、昔やたらくずはモール、もうこっちきたときは大きいセンターになってたんかな? ちよっとわかりませんが。樟葉、経由で・・・大阪とか京都とかっていうことはかなりその・・・頻りに近い感じ、ですか? ここから。
 Tさん:最近はあるま行かないですけどねえ。
 Y:うんー。お元気な頃。
 Tさん:元気なときはもう、よく京都まで映画いってました、友達と。
 Y:ああそうですか。
 K:へえ～。
 Tさん:はい。はい。映画が好きでね。あの、新聞なんか見て、案内があつてああこれいいあつて思ったら友達と、
 Y:ああそうですか。
 Tさん:あの、いってました。最近ちよっと何年か行ってませんけどね。
 Y:まああのお勤めなさってたから、その移動することは苦にならないとかそういうこともあったんかな?
 Tさん:そうですね。はい。私、既製服団地25年間勤めてた。
 Y:うーん。
 Tさん:ようがんばったなって自分でも思いますけどね(笑いながら)
 K:ふふ(笑)

Tさん:うーん・・・
 (沈黙約15秒)
 K:団地の中でお気に入りの場所とあってあります?
 Tさん:んーお気に入りのばしょねえー (笑いながら)
 (地図を広げる音)
 Y:C 団地ゆうたらどこや。
 K:C ですか。これが中央なんで。
 Y:これ、今おとこがここや。
 K:そうそうそう。そこです。
 Y:これ団地の、拡大した地図です。
 Tさん:わあすごい。
 Y:これ拡大したら、人歩いてんのまでうつってます。
 Tさん:すごいですねえ。
 Y:これがいわゆるゴルフ場やろ? 盆踊りここやな?
 K:そうですそうです。
 Tさん:うん、フッハッハッハッハ (笑)
 K:でもなんかイベントやってるときの写真やから。
 Tさん:うん。お祭り広場言うてね。
 Y:あ。コレお祭り広場なんやね。
 K:あ、もともとそういう・・・お祭り広場って言うんや・・・。
 お祭り以外でなんかやってるんですかねイベントって。
 ここで運動会はやらないですよ。
 Tさん:やらないですねえ。運動会はしないねえ。やから餅つきと、盆踊りと、それからあの一泊りの旅行とかね。
 K:えっ、そんなあるんですか?
 Tさん:うん。あの一泊りのC 団地でね。
 Y:ああそうですか。
 Tさん:バス旅行もあるんですよ。
 H:すごいですねえ。
 K:すごい。仲良し。えへへへ (笑)
 Tさん:フフン (笑)
 Y:それは自治会の。
 Tさん:そう、自治会でね。2回ぐらい参加したことがありますよ。
 Y:ああそうですか。
 Tさん:うん。毎年しはりますわ。
 K:へえ〜。
 Tさん:でまた緑会ゆうて老人会みたいなんがあって。
 K:うん。
 Tさん:それも日帰りね、泊まりもあるんですけど、やっぱり泊まりは行きたくても事情があっていけないという人のかわりに日帰りもしよかあゆうて。
 K:はい。
 Tさん:去年はじめて日帰りね、に参加したんですよ。滋賀県のどこやろ、ゆうてはったのは。近場でねえ。
 K:うん。
 Tさん:うん。で、グランドゴルフされる方はあ、私らもうしないから、しない人はカラオケをというフフン (笑) 感じで。
 Y:そういうことで得意なわけですな。
 Tさん:いやいや、上手な方いっぱいおられますからあ。
 Y:図書館言うたらここやな。カラオケはどっかこの辺やな。
 K:そうです。
 Tさん:そうです。ち、近いですよ。あのバスの通りの、ちよ、ちよとね・・・
 K:下ったとこ?

Tさん:うん。クリーニング、じゃなくてあの一、洋服の病院がね、あるんですよ。その裏のほうですわ。
 K:へえ〜。
 Tさん:だから近いのは近いんですよ。ここから・・・
 K:カラオケ喫茶みたいなどですか?
 Tさん:うん。そうです。
 K:ふうん。
 Tさん:もうあの一昼しか行かないから。
 K:うん。
 Tさん:夜はもううけたらいかんからアッハッハッハ (笑)
 Y:そりゃそうですね。病院ってのはどっかこのへんでしょ?
 Tさん:ええーつとみすぎかゆうて病院が・・・
 Y:ここが言うたらバスの・・・
 K:うん。
 Y:これいまここ、こっちいったら・・・どっかこの辺にあるんかな。
 Tさん:昔のあの一・・・関西医大男山病院が。
 Y:あっそう。男山病院がね。
 Tさん:みすぎが。
 Y:このへんにあった。男山病院がどっかあったですかね。
 Tさん:今建て替えてるからね、半分新しくなって。
 K:ようみたらカラオケ喫茶ありますねえほかにも。
 Tさん:フフン (笑)
 K:結構需要あるんや。
 Tさん:すぐ、すぐそこにもあるんですけどね、そこのは行かないんですよ私は。ちょっと下ったところに。
 Y:ふふふ (笑)
 Tさん:フッフッフ (笑)
 K:はやってる・・・
 Mさん:自治会長さんもやってはるなあ?
 Tさん:うん。あの方今度出はるねん。
 K:ナルカワさん?
 Tさん:ナルカワさん。今度出はるねん。
 K:歌うまいんですか?
 Tさん:じょお一ずですよ。
 K:あっそうなんですか今度聞いときます。ふふ (笑)
 Tさん:あの一アキって言うカラオケ喫茶があるんですよ、あっちのちょっと図書館の近くに。
 その発表会に、出られる。
 K:へえ〜。
 Tさん:上手ですわあ〜。
 Y:みんな達者なんやな (笑いながら)
 K:なんかもしお友達とか来たら、どっかこう、案内したいなあとかいうとこ無いんですか。
 Tさん:んんー・・・松花堂ぐらいかなあ?
 K:松花堂。
 Y:やっぱりちょっと、あの、珍しいというか、あの一よそから来たときに、あの一足を運んでみてもいいというたらむしろ、こっちの男山の・・・
 Tさん:そうですね。八幡さんとかね。
 Y:八幡市ゆうのはいいけど、こっちは新しいまちですもんね。
 Tさん:そうですね。
 Y:こっちにはちょっとしたものがあるという、そんな気がするけど。・・・そうか、八幡さんゆうたら・・・
 K:うん。そうですそうです。
 Tさん:元気なときはあの毎年、新春歩こう会ゆうてね。

K:はい。
 Tさん:八幡市主催のね、歩こう会があったんです。あの一
 出発点が松花堂。
 K:はい。
 Tさん:それでまた松花堂に帰ってくる。
 Y:はあ帰ってくる。ほんでぐるっと回ってね。
 Tさん:でえ、帰ってきたら松花堂で、あの一、お茶とお。
 K:うん。
 Tさん:おまんじゅうと、フッフ (笑)
 K:へえ〜。
 Tさん:んでその年の、干支の記念品も。
 Y:はいはいはい。
 Tさん:何年か参加してましたけどね。
 Y:へえ〜そうですか。
 Tさん:やっぱ・・・してから・・・行けなくなりました。
 Y:それは八幡さん上のぼったりして。
 Tさん:はあ。それが大変だったんですよ (少し笑いなが
 ら) もう・・・で途中でクイズしたりね。そんなんで。
 K:ふう〜ん。
 Tさん:で、八幡さんの下のほうの昔からある、あの一お菓子
 屋さん?
 Y:はいはい。
 K:ああ一、なんか有名らしいですね、なんやっつけ。
 Tさん:なんかね、まあ。
 K:おまんじゅうやっつけなあ。なんか聞きました。
 Tさん:うん、そんなんが景品に出たりとかね。
 Y:あの、僕らまあ大阪からこっち来てるゆうのも面もあるん
 ですけどね。
 Tさん:はい。
 Y:まず、こっから言うたら樟葉を意識するわけですけど。
 Tさん:ああ一・・・
 Y:でも今お話伺った中でほんとの、本当の生活ぽかしゆう
 てて、ここに・・・じっくりした生活はね、なんか今お
 っしゃってるような感じ・・・こっちのほうにあるんか
 なあと・・・まあそのはちまん、やはた市の市民という
 こともあるんでしょうけどね。
 K:くずは枚方でしたよね。
 Tさん:そうですね。
 Y:これこれ枚方。
 Tさん:そこの道いっばこっちは枚方、こっちは大阪ゆう
 てあの一京都というか、八幡ってなってます・・・
 Mさん:僕なんかはもうほとんど八幡のほうじゃなくて枚方
 のほうですね。
 K:そうかそうか。
 Mさん:僕が調査してる限りでも、購買活動は、ほぼ、枚方・・・
 K:え、購買活動も調査したん?
 Mさん:いや、まあその話聞いてる中では。
 K:ああ一。
 Mさん:やっぱりその枚方のほうに、あのライフで買う、まあ
 日常的なものはライフで済ませる人が多いですね。
 Y:うん。ああそうか。
 Mさん:ほとんどまあくずはモールですね。
 Y:これはもう、日常のもん買うか言うたて・・・
 Mさん:そうですね。特急停車駅になったのが大きいってみん
 な言うてますね。
 Tさん:あれよくなりましたねえ。特急停るようになって。

Mさん:まだ八幡市に行く人いるよな、八幡市駅・・・
 Y:ああ向こう行く電車ね、でもその、さっきの野菜売りにき
 たりするのはこっちからくるんでしょう?
 Tさん:松花堂ッフッフ (笑)。
 Y:あの、繋がってるんやけどね、なかなか意識してもらえな
 いということ。
 Tさん:もうちょっとしたら、地のタケノコが出るでしょう?
 K:ああ有名ですね。このあたりの。
 Tさん:もう、毎年送ってもらおう農家の人決めてるから。
 K:へえ一。
 Tさん:住所だけ書いて渡してたら、手頃な値段になったら送っ
 てくれはるから。
 K:へえ一。
 Tさん:最初はまだ高いからね。
 K:そうですね。
 Tさん:うん。
 Y:まあいいですね、それ。
 Tさん:もう何年もそういうふうにしてるから。
 K:この辺のタケノコはブランド化されて高いですね。
 Tさん:そうですね。
 K:おいしいと思うんですけど。・・・市長さんもタケノコ農
 家というかね、山持たれてて。
 Tさん:うん。
 Y:ああそう。
 K:はい。
 Tさん:でもあれも大変みたいですね。
 K:あ、手入れが。
 Tさん:そのままほったらかしてできそやけど、それではまず
 いから。
 K:そうなんですそうなんです。
 Tさん:うん一、やっぱり土とか肥料とかね。
 K:そうそうそう。だから・・・
 Tさん:だからやっぱり手をかけないと、ダメみたいですよ。
 (沈黙約10秒)
 Tさん:広いねえせやけど、すごいねえ。
 K:すごいですねえ。
 Y:ここに人って・・・3万人くらい住んでるんかな?
 Tさん:でも・・・
 K:八幡市の人口の1/3、が住んでる。
 Tさん:私んとこの階段10軒あるんですよえ全部入れば。
 え一と何戸はいつてるかなあ3つぐらい空いてます。
 K:ああそうですか。
 Tさん:4階2つ空いてて、5階1つ空いてる、3つ空いてま
 す。
 Tさん:裏にちょうどちっちゃいちっちゃいあの公園がある
 からね。
 K:そうですね、公園に挟まれてる。
 Tさん:そうね、前と後ろに。
 K:日当りいいとこですよ。
 (沈黙約5秒)
 K:なんかあの一5階とかに入居者紹介したら、クオカードも
 らえるとか (笑)
 Tさん:ッフ (笑)
 K:なんかUR宣伝してましたけど。
 Y:なにが?
 K:クオカードって言う、き、金券みたいな、5千円の金券

あげますみたいな。
 Y:ああそう。
 K:キャンペーンやってみました。
 Tさん:5階はねえ。
 Y:あの、若い人、元気な人が入れば。
 Tさん:そうですね・・・
 H:大学にはどうやって通ってるんですか？
 Mさん:ぼくうーは。
 H:やっぱバイク？
 Mさん:あっ自転車ですね。
 H:駅まで自転車。
 Mさん:自転車で、まあ帰りがちょっとやっぱりしんどいですね。坂道なんで。はい。まあ行きはすぐなんですけど。
 K:何分ぐらいですか？
 Mさん:行きはもう10分くらい。
 K:ああそんなも。
 Mさん:帰りはまあのろのろ帰ったら、倍ぐらいかかりますね。こここちに車持ってこようと思ったんですけども・・・
 Tさん:私が・・・バツ (笑)
 K:ははは (笑)
 Mさん:ははは (笑)
 Tさん:車だったらねえ帰ってくるまで寝られませんか。
 K:あー。
 Tさん:やっぱり預かってねえなんぞあったときがね。
 K:確かに。
 Tさん:だから両親、この子の親たちはもうばあちゃんがOK出したらいいゆうたから、私は出さないってゆうた。フッフッフ (笑) ダメ。
 H:樟葉から北山まではどうやって、何に乗る、何の電車に乗るの。
 Mさん:京阪電車で出町柳まで行って、そこからまた自転車でですね。
 Y:ああ自転車。
 H:雨降ってたら。
 Mさん:雨降ってるときとかはまあ三条とかで乗り換えていってるんですけど。
 Y:ああそうか。地下鉄は学校のそばまで行くわけ。
 Mさん:そうですね。
 Y:ああそうかそうか。宝ヶ池のほうに向かっていくやつやな。
 K:ああそうですそうです。
 Mさん:まあだから通学はすごく不便に感じますね。
 K:はっはははは (笑)
 Mさん:男山の一樟葉の近くやったらね、すぐ、いいんですけど。男山っていう立地的に・・・
 Y:???
 Mさん:そうですね。ちょっと、厳しいかなあって思ってますけど。
 H:なんか若い人にもお何らかのすごい魅力があれば。
 Y:うーん・・・
 H:暮らすにはまあ暮らせるんですけど、より魅力があれば若い人が空き家に、ドンドン来る可能性は・・・
 Y:そうやな、5階にな。
 Mさん:まあただ僕はおばあちゃんが住んでるから、住んでるんですけども、例えばこの近、ホントの近くに勤務地があればね、まあ住むかもしれないというくらいで。んーまあそれで僕がここで2年間くらい居住してるなかで、

あえてここに居住したいな、っていうようなそういう魅力は感じてない状態ですね。
 H:例えば、家賃がもう3万・・・や、家賃が安いとか。あの、部屋の中がめちやめちやかっつきいいとか、な、なんかあればいいのかな？ハハハ (笑)
 K:うーん。
 Mさん:なんか5階一を借り入れて、なんか色塗ったりしてたみたいですねえ。カベの色とか。
 Y:DIY ゆうのが・・・ここはやれる場所やったんですよ。
 Mさん:まあそういうなんかカスタマイズ意欲のある人とか、はあ、なんかそういうのみる感じかもしれないですね。賃貸でそういうのできるとか、、は、あんま無いんですよ。
 Y:そうですね。
 Mさん:規模としては。
 H:若い人がやっぱり入ってこないとねえ循環していかないからねえ。
 Y:そう、うん。
 Mさん:そう・・・それがたぶん難しいんでしょうね。
 H:むずかしいんかな。
 Y:うん。ドンドン若い人来たら、そしたらおばあさんなんか、すごい楽しはるんでしょうね。呼んでこな！
 Tさん:フッフッフ (笑)
 K:ふふふふ (笑)
 Y:まあ魅力なあ。新鮮なタケノコを、食べさせてもろうただけでは・・・。
 Tさん:フッハッハッハッハ (笑)
 K:ふふふふ (笑)
 Mさん:いやいやあそれはおばあちゃんいるという魅力はあるんですけどね (少し笑いながら) その一土地の魅力っていうか。
 Y:うんうんうんうん。
 Mさん:もっとぼくがここでなんか交遊関係とか広げていければ。
 Y:うん。
 Mさん:そういうのも、愛着とかも湧いてくるかもしれないですけどね。
 H:おばあちゃん弁当を・・・??ふふふ (笑)
 Y:まああんまり意識して中の人と、あの交わろうとして、なかったねえおそらくは・・・
 Mさん:ああその一研究活動の中でその、なんていうんですかね、まあその一地域活動の中へとけ込むことによって、その、協力を得やすくなるかなということ、まあ意識的には参加してるんですけども。
 Y:ああそうですか。
 Mさん:まあそもそもが僕の同年代の人ではないので。
 Y:うーん。
 Mさん:そうですねえその一・・・
 Y:そういう活動をしている人は、高齢の人。
 Mさん:そうですね、まあ・・・もちろんその一えーと働いてる世代、こう勤労の世代の方も、まあ数人いるんですけども、ほとんどがやっぱり高齢者。まあ僕植栽に関する研究なんで、ほとんど高齢者ですね、70歳以上ですね、と特に。60・・・
 K:うん。
 H:なんか例えば内部2つぐらいぶち抜いて、その、えっと水

野君だったけ？その、そういう集まり場みたいなのが、
タダで借りれるとか、めりメリットを（笑）つくるとして、
そのここにみんなが住みたくなるメリットってある？

K:たまり場欲しい？

M さん:はい？

K:たまり場みたいなんほしい？

H:お、同じような若い人のたまり場とか・・・

M さん:そうですね、僕がここに友人がいたらまた、そういう
あれはあるん・・・あるかもしれないんですけども、僕
うもう本当にここにもうずっと同年代の友人がいないん
で・・・

H:基本みんなそうでしょうね。ここにね。みんなそうい
う・・・

M さん:でもまあ別にそういう例えばまあその E ラウンジっ
ていうてるのがあって、そこで集まれるみたいなんです
けども・・・まあ僕がそこに入ってなにをしようか、つ
て感じではないですよ。

H:確かにね。

M さん:研究に関することであればという感じなんですけど。

Y:そうよね。何か目的あって集まりができて、ね、そこがた
まり場になればね。だんだん広がっていくけど。

M さん:そうですね。

Y:でもそれ、安く使える部屋があったらそれ借りて外でてな
にかしようかとかはできやすくなってくるかも・・・

M さん:アあそうかもしれないですね。

Y:たまたま今そういう展開になってないだけで。

K:いま、なんかルールありますよね。なんか自治会活動でし
かイーラード使えないっていう、ねえ。

T さん:うーん。

K:ねえ無料やから。

M さん:ただまあ自治会の方が管理をするみたいなんで、まあ
自治会活動をどこまで指すかっていうのが疑問なんです
けど。まあ結構好き勝手使ってる感じなんですかねえ。

K:飲み会とかも？

M さん:いや、飲み会はしてないですかねえ。なんか、、まあ
自治体の方がまあ・・・好きに使ってはるみたいですよ
ね。

K:ふーん。

Y:ふんー。

H:今度、どっかでやるかもしれないプロジェクトはあ。例え
ばあのお住戸の3戸分を、住戸の3戸分の1戸がみんな
のリビングで、シェアハウスでうえに4、5人住んで、
一人当たりの家賃はものすごい安いとかね。

M さん:ああ面白いですねえへへ（笑）

H:あるいはあ1個の階段で2、3、4、5の人それぞれ玄関
あるけど、その人たち用の、みんなの部屋が1階にある
とか。なんかちょっと変わった構成をしようかなと・・・

Y:べっこがひとまとまりの、なんかグループ・・・

H:べつたりの一体のシェアハウスが準シェアハウスという
か。

Y:うん。

H:一応独立してるけど、みんなのリビングも一階にある。

Y:それは面白いねえ。元気な子は上行けいったらいいし。

T さん:フッフッフ（笑）

M さん:そうですね、京都とか大阪とかまあ通える範囲なんで、

まあちゃんとそういう魅力が伝わればね、もしかしたら
入ってくれるかも、そういうところがいっぱいあるなら。
K:なんかさっきね、あの一お家の中にお、あの一友達入れた
りしないっておっしゃってたんですけど、もしね、無料
でお茶とか飲めるスペースあったら、使われますか？

T さん:んんー・・・そやねえ。

K:談話できるスペースとか。

T さん:んん・・・

M さん:毎日使いそうやなあ、そんなん。

K:ふふ（笑）

T さん:フッフッフッフ（笑）

M さん:最大限に活用しそうやなあ！

T さん:うーん。うーん。

K:いまなんかカギないと、イーラードはカギないと入れな
いんでえ。

Y:あぁー。

K:自治会長さんとかに言わないとー。

Y:借りにいかんといかんのやな。

K:そうそうそう。

Y:そりゃたいそうやなあ。

K:そうなんです。

Y:みんながカギ持ってて。

K:そう、とか開けっ放しとかね。

Y:うーん。

M さん:トイレいかん？はいはい。

(T さんさんがトイレに。)

H: (1時間経ってます。)

H:1時間経ったのでそろそろ。

Y:うん。もう。ちょっと疲れてきはる・・・

M さん:聞きづらいことあったらあまあ僕の知ってる範囲
であれば、はい。

Y:うん。うん。

(沈黙約9秒)

H:おばあちゃんだけ帰してあげればいい。

M さん:はい？

H:おばあちゃんだけ帰してあげてあなたともうちょっとし
ゃべるとか（少し笑いながら）そういうわけにはいかな
い？

M さん:いや、ぼくはまあ全然時間は大丈夫なんですけど
も・・・

H:ぼくはだいたい、いろんを聞けてきたから。今日はお
う・・・

M さん:あつ、すいませんありがとうございます。 (食器をか
たづけてくれてる人に?)

Y:まだ学校は、外にむけて学校なんか・・・

M さん:そうですね。僕はちょうどあの・・・一昨日にちょっ
と住宅学会の、なんて言うんですかね、その一住宅学会
のその一、まあコンテストですかねえ？まあ発表の。が
終わったところで、明後日7日にちょっとまた近畿文
部かなんかのやつ・・・

K:はいはいはいはい。それ、うちのスタッフも出してる。

M さん:あ、はい（笑）

Y:住宅学会に入っていらっしゃるんだ。

M さん:そうですね。

Y:うん。

- K:あの一、えっ？じゅうたく、、、なんて言う研究室やったっけ。じゅうきょ・・・
- M さん:あつ、住居学研究室。
- K:住居学研究室。
- M さん:えー・・・
- K:岡先生のあの、出身研究室やと思うんですよね。
- Y:ああそうか！
- K:はい。あの一府立大の住居系の研究室っておっしゃってたんで、一個しか無いよねたぶん。
- M さん:ああそうですね。いまは檜谷さん、が後任で大阪市大から入ってきてはるんですけど。
- Y:ああーそうかそうか。
- H:あつ、檜谷先生かあ。あああ、はっはっは (笑) なるほどなるほど、そういうことか。
- Y:じゅうこ・・・住居学？
- M さん:住居学研究室一。
- Y:、、、研究室。
- M さん:で・・・そこで団地における一オープンスペース、居住者のオープンスペースのなんか、利用とかそういう、
- Y:ああそうですか。
- M さん:感じの、ことを、勉強してて。
- H:一回の彼らのとこでレクチャアしてもらったら (笑)
- K:そうそうそうそう (笑)
- H:研究成果とかを (笑)
- K:また連絡します (笑いながら)
- M さん:いやいやもうほんと (笑いながら)
- Y:いやだからあの一。
- K:その卒論をね、ちょっと発表してほしいかった。
- Y:今日はもう時間長い間、ありがとうございました。
- H:もうもうおばあちゃんだいじょうぶです。
- Y:またあ、そんなことを、また。聞かせてください。
- K:また連絡取らせてください。
- Y:その後のこととか、研究してることとか。
- M さん:なんかまた調査結果とか共有できればね。
- K:そうやねえ。
- H:そう。
- M さん:すごいいいと思うんですけどね。
- Y:そう。そう思うわ。
- M さん:アンケートとかもね、一応したんですけど。ただ回収率がすごい悪くて・・・
- Y:うん。
- K:どれくらい・・・
- M さん:11パーですね。
- K:11パー。
- M さん:どれくらい取れましたあ？
- K:あつ、配って？
- M さん:あつ、これは自治会を介して。
- K:あー。
- M さん:配っていただいたんですけど、あの一カーシェアリングのやつは何パーぐらい取れたんですか。
- K:カーシェアリングのやつは、**最初**があえっと30パーセントぐらい行ったんだけど・・・
- M さん:30パーもいったんですかあ！
- K:ただ、あれ分譲とかも、入れて。
- M さん:はあ・・・
- K:全部入れて。でも2回・・・
- M さん:賃貸のほうは悪かったですか？
- K:賃貸は悪かった。20弱ぐらいかな。
- M さん:あー20弱い、あったんですね、それでも。
- K:2回やると、いつ、さい、2回目が低くなってた・・・またか、ってなるからやと・・・
- M さん:僕もちょうど同じ時期やったんでえへへ (笑)
- K:そうかそうかそうか。
- M さん:そうですね、ちょっと回収方法を考えないいけないなあというふうには思いましたけど。
- K:そうやねえ。
- M さん:自治会のかたがやってくさるんで、結構任せっきりにしてたら、あまり・・・それもそれであまり見えてなかったかなあっていう。
- K:えっ。回覧板で回してもらったん。
- M さん:えとー (あれはどういう風に回収したんだっけな) なんか・・・
- Y:ポストへ入れてその・・・
- K:そう、私たちも一全戸にポスト入れて、学生が。
- T さん:全部刷ってくれはったんやんね。
- K:あつそうなんですか・・・
- T さん:うんー。
- M さん:なんかやってくさるゆーて・・・
- K:へえー。
- T さん:いや、お手伝いしますよおゆうたら「いいーそんなもん」ゆうてしてくれはったからあ。
- K:ええええ。
- M さん:おばあちゃんのお・・・あの、顔が、きいたんです。
- T さん:たいした顔やないんですけど (笑いながら)
- Y:ふふふ (笑)
- T さん:だからあと一・・・ちゃんとうなりましたゆうことをね。
- K:報告して。
- T さん:報告はあきちんとしてねってゆうて。
- Y:うんー。
- T さん:お世話になったんやからあゆうて。
- K:じゃあナルカワさんとともに、結構お知り合いなんですか。
- T さん:いやいや！そんな知り合いじゃないですよ。
- K:あ、そうですか。
- T さん:ただこっち引越して、あの方もカラオケされるし。
- K:はいはい。
- T さん:私もカラオケに。
- K:するし。
- T さん:そんな感じですよ。
- K:ああそうですか。
- T さん:うん。
- K:あの方すごいいい方で。
- T さん:うん。
- K:私も結構相談してるんですよ。
- T さん:ナルカワさんとか一コニシさんとかね。
- M さん:親切やなあ。
- T さん:うん。
- Y:んじゃこんどはそろって発表会行かれるんですか。
- T さん:んや、あの一別なとこですまた。ははあ (笑) 私が出るとこと、ナルカワさんが出る・・・
- Y:あつ、発表会の場所も別。
- T さん:はい。そうです。はい。

Y:そうですか。
 Tさん:あの、会場は一緒なんですけど、その主催するお店が。
 Y:あつ。
 K:あつ。
 Tさん:違うんです。
 Y:ああーそうかそうか。
 Tさん:ナルカワさんはアキっていう、か、カラオケ喫茶、私はユルギっていうカラオケ喫茶。
 Y:ああそうですか。んなら店がその場所を借りて。
 Tさん:そうです。
 Y:そこで発表会やる、ああー。
 Tさん:はい。
 Y:そうかそうか、んならいろんなお稽古ごとと一緒にやわあ。
 Tさん:ふっふ (笑)
 Y:踊りの会するのかな。あのー今日はありがとうございました。お疲れにい・・・ならなあかんゆうのに。
 Tさん:お役に立ててないと思いますけど (笑)
 K:いやいやいやいや。
 Y:そんなことありません。
 K:もしもしねえ。
 Tさん:はい。
 K:こういうはなしいで、あのーちょっとお友達とかでえご紹介いただけたら、あのまあこういう喫茶店とかでいいので、お願いできないかなあと思ってるんですけど・・・いらっしゃいますか？
 Tさん:古い方がいいですか？
 K:まあ10年ちょっとまあ住ん・・・
 Y:でもまあどんな方でもいいんですけどね。若い方いらっしゃったら、若い方がいいかも。
 Tさん:若い方・・・
 Y:カラオケでしてる人でお仲間で団地の中に住んでる人いませんか。
 Tさん:いやあいてはりますけど、あのおー私より一年数が浅いんですわその方。
 Y:こっちに住んでから。
 Tさん:はいはい。インタビュー・・・ねえ。
 Mさん:結構長い方が一体調崩されてる方多くてえー、あんまり。
 Y:ああ、もうね、ちょっと・・・
 Mさん:そうなんですよね。ふたーんを要・・・
 Tさん:うん。
 K:5年以上やったら・・・
 Y:うんまあ何年以上とかそんなことでもないわけだけど、まあまあ5年ぐらいいはったら、いろんなことを体験しておられるかもしれない。うん、どっか、そういう方に繋がりましたら、またご紹介いただければ、嬉しいですけど。
 K:お願いします、またその言っただいて、こっちに (笑) すいませんけど。
 Tさん:フッフッフ (笑) できるだけ、協力させていただきたいと、思ってますう。
 K:ありがとうございます。助かります。
 Tさん:今日はエライお待たせしてしまって、すいませえんどうもほんとに。
 K:いえいえいえいえいえい、ありがとうございます。
 以上